

レポート・10月29日・久保怜愛

現場に学ぶ医療福祉倫理

公衆衛生看護学領域（実践コース） 25S1055 久保怜愛

拝啓

北海道大学付属病院院長 南須原康行先生

ご講義ありがとうございました。

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 看護学分野 公衆衛生看護学領域（実践コース）の久保怜愛です。

今回の講義は、医療安全を「人間の特性」「組織の構造」「伝える力」から見直すものでした。保健師として、地域で暮らす人々の命と健康を守る立場から、深く共感し、多くの気づきを得ました。

ヒューマンエラーは、個人の責任ではなく、環境や仕組みの問題として捉えるべきだという視点は、転倒や服薬ミスなど地域での事故予防にも通じます。保健師は、住民がミスを起こしにくい環境を整える「仕組みづくり」の担い手であると感じました。また、講義で紹介されたコミュニケーションエラーの事例は、保健指導や多職種連携の場面でも起こり得るものばかりでした。専門用語の使い方や「言わなくても伝わる」という思い込みが、誤解や事故につながることを改めて実感しました。また、医療事故調査制度の歴史からは、制度だけでなく、現場の意識改革が必要であることを学びました。

今回の講義は、保健師としての実践を見直す大きなきっかけとなりました。医療安全とは、誰かを責めることではなく、誰もが安心して暮らせる環境をつくることであることを学びました。今後、保健師として活動していく時に、地域住民の声に耳を傾け、わかりやすく、あたたかく、そして確実に伝える力を磨きながら、「安全な暮らし」を支える一員として歩んでいきたいと感じました。

ありがとうございました。

敬具